

集めて・育てて・送り出す ～大学の質保証～

1. はじめに

昨今、世界トップレベルの大学力の実現を目指し、大学教育の質保証という観点から、大学教育を通して学生が何ができるようになったかという学修成果に焦点をあてた大学改革が推進されている(高等教育の質保証に関する文部科学省の取組 2014 年 1 月 10 日資料より)。大学の質保証とはどのように実現できるものだろうか。

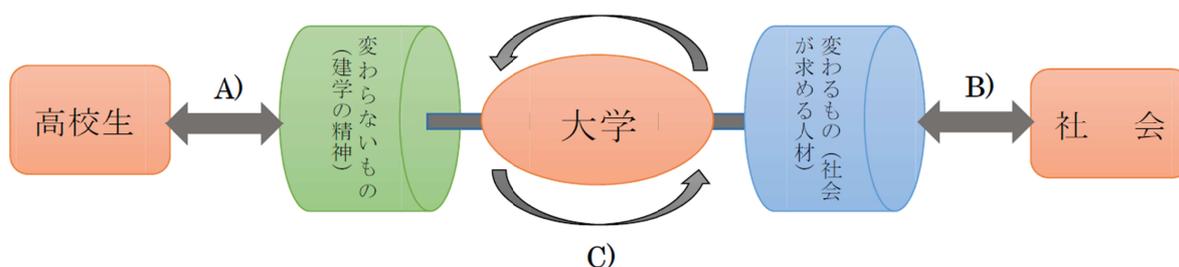
2. 大学の役割

私立大学は、それぞれの大学が教育に対して思う目的、理想といった「建学の精神」を基に創設している。よって「建学の精神」は変わることなく継承されるべきものであり(変わらないもの)、その建学精神こそが今の各大学の特徴・特色を作りだしているベースとなっている。一方で、わが国を取り巻く環境・社会情勢は日々変化しており、企業・社会が大学に求めるものは変化してきている(変わるもの)。

このように大学教育は「変わらないもの」「変わるもの」の両輪で改革を行い、常に新しい社会で活躍する人材を輩出していかなければならない。今回の研修で私たちは、時代の変化によって社会が大学に求めるものといった「変わるもの」について、大学はどのように対応していく必要があるのかについて議論し、大学の質保証として、以下 3 点に取り組むことが重要であると考えた。

- A) 大学が育成する人材について、企業や社会・高校生にわかりやすく発信していく(ミスマッチの防止)
- B) 時代とともに社会が求める人材を育成するための仕組みを授業等にも導入していく
- C) 「教育の成果」の点検・評価をする体制を構築する

新しい社会で活躍する人材を輩出するためのプランイメージ



3. 現状と課題、課題解決の方策

【高校生⇄大学の視点から】

入学後に、入学前の期待とのギャップを感じる学生も少なくなく、このようなミスマッチは後に成績不良や退学へも繋がる要因となっている。その原因の一つとして、高校生や保護者が大学を知るためにネット上の雑多な情報を多く活用していることで口コミやイメージに流されていることや、偏差値だけで大学を選ぶ、なんとなく大学に進学するといったことが考えられる。また、大学側も**高校生が求める情報**を把握し、発信できていない。

(課題解決には)

- ✓ **情報収集** ⇒ 高校生のことを深く把握している高校教員との情報交換を定期的実施する。
- ✓ **情報提供** ⇒ 高校生・高校教員に向け、ICT を活用し、どんな学生を育てる大学かを分かりやすく開示する

【大学⇄社会の視点から】

学生への意見を大学改善に反映させるため、授業評価アンケートを実施している大学が多くなってきている。しかしアンケート対象者が学生だけであるため、例えば単位を取りやすい先生の授業の評価が高くなるなど、客観的な評価が難しい場合も想定される。また、教員以外の社会経験をしていない教員も多いことがあり、社会のニーズを把握して授業ができていないかに疑問が残る(教員の個人商店化)。**社会からの声**を取り入れる手段が確立していない。

(課題解決には)

- ✓ **情報収集** ⇒卒業生を対象に、大学で学んだことが社会で活かされているのかをアンケート調査
- ✓ **情報提供** ⇒アンケートの結果を教職員で共有・分析し、教職員が一緒になって学生のサービス(授業や学生支援など)を向上させる仕組みを作る

4. ICT等を利用した具体的な解決策

- 大学は自身が提供している教育についての第三者評価として、また現状の社会が求めるニーズの調査のため、オンラインアンケートなどのツールを利用して、卒業生調査を実施する。
- アンケート結果に迅速に対応するため、学長などを筆頭に教員と職員からなる委員会を立ち上げて取り組む。アンケート結果や取り組みについて大学全体で把握するため、ポータルサイトで情報共有し、教職協働を実現していく。
- それら現在進行で改善している大学の取り組みや、大学が掲げる教育目標を、わかりやすい形で高校生・教員や社会に向けて伝える必要と責任が大学にはある。そのための一つの方法として、学生生活や学修内容について在學生や教員から直接高校生が聞くことができる機会を提供したり、ICTを用いて実際に開講されている授業を高校生に配信りすることが考えられる。
- 配信された授業を受けた高校生等に向けてもオンラインアンケートを実施・分析し、更なる改善の材料としていく。

